

# 道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会  
 事務局 〒004-0006 北海道厚別区厚別町小野幌53-2  
 北海道開拓記念館内  
 電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

## 平成10年度第37回北海道 博物館大会(浦河大会)終える

平成10年度の本大会は、去る7月1～2日、150名の参加のもとに浦河町で開催された。

大会1日目は、浦河町総合文化会館を会場に、午前10時より開会式がおこなわれ、地元浦河町町長 谷川弘一郎氏、日本博物館協会会長 佐野文一郎氏(代 同専務理事 五十嵐耕一氏)、北海道教育委員会教育長 南原一晴氏(代 道教委社会教育課長 藤原貴幸氏)の祝辞をいただいた。ついで総会に移り、平成9年度事業報告、同会計収支決算報告、会計監査報告が満場一致で承認され、さらに平成10年度事業計画、会計収支予算案も原案通り可決された。また、平成11年度の大会開催地は、江別市に決定された。

この後、平成10年度道博協表彰式に移り、松木

恒男氏(北見市)、地元浦河町文化財少年団「博物館クラブ」が受賞の栄を受けられた。小休止の後、日本博物館協会専務理事 五十嵐耕一氏による特別報告をもって、午前の部を終えた。

午後は、馬事文化財団 馬の博物館学芸部長 末崎真澄氏による特別講演、続いて、テーマ「生涯教育の町づくりと博物館の役割」のシンポジウムは、様似町教育委員会 水野洋一氏の司会のもとに3名の方々の報告、さらにこれをもとに意見交換、討議がおこなわれた。

夕刻の懇親会は、地元のご好意によるアトラクション、抽選会などもあって一層の盛り上がるうちに相互の交流も深められた。

2日目は浦河町立郷土博物館・浦河町馬事資料館、町立伏木田光夫美術館、日本中央競馬会日高育成総合施設など馬産地浦河ならではの施設を研修し、2日間にわたる全日程を終了した。

## ■石狩・後志・空知地区博物館等 連絡協議会設立開催される

道央地区の博物館施設等連絡協議会の設置については、平成9年7月の第2回役員会において安藤副会長、本間理事(4月以降は鷲足理事)、青木理事、三野理事の4氏が担当理事として選出され、その準備が進められていた。その後、6月10日の設立準備委員会を経て、7月29日、北海道立近代美術館において設立総会が開催され、名称も「石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会」として発足した。

総会当日は、吉田会長の祝辞、ついで青木理事による設立経過の報告、その後、議長に安藤副会長が選出され、1)会則、2)役員構成ならびに事務局体制、3)平成10年度事業計画案、4)平成10年度予算案などについて活発に協議がなされ

た。最後に初代会長に選任された(財)北海道開拓の村理事長 加々見輝雄氏の挨拶をもって閉会、このあと会場にて開催中の特別展「大本山相国寺」の見学がおこなわれた。なお、事務局は(財)北海道開拓の村に置かれている。

## ■平成10年度北海道博物館協会 ミュージアム・マネジメント研修会

テーマ：博物館とバリアフリー

主催：北海道博物館協会、網走管内博物館連絡協議会・日本博物館協会北海道支部

日程：平成10年10月27日(火) 13:00～17:00

会場：北網圏北見文化センター

内容：講演1「車いすから見た街と施設」  
 北海道身体障害者 相談員 永山 衛 氏  
 講演2「博物館のバリアフリー計画」  
 国学院大学文学部 助手 山本 哲也 氏

## 第37回

## 北海道博物館大会に参加して

## ■シンポジウム

## 「生涯学習の町づくりと博物館の役割」

生涯学習に対して地域住民が積極的に取り組む姿勢は、子どもにとって自分の生きる基盤が確かなものになり、未来を創造していくための豊かな感性が育まれる土壌となります。自分の育つ環境から自信を与えられ次世代を担っていくことに希望の光を持つことは、自己と他者の生を大切にす姿勢につながります。自分の暮らす身近な自然や文化に触れ興味を持つことで、何世代にも渡って営まれてきた普遍的、本質的なものの存在に気づくことは自尊心をもたらし、知識・技術・感性を高めていく力となり、その過程が生涯教育といえましょう。活動が町づくりへつながるといのは、大人が地域に目を向け子どもに伝えるという行為を通じ、より理解を深めたり新たな創造力が刺激されることも意味すると思います。独自の文化、自然を保有することで精神的に豊かな町となり、そこに生まれ育つ子ども達がよりよい未来に向かって地域に根ざして活動していく、つまり、生涯学習が町を豊かにする手段と目的をともに持っています。たとえ町から離れていても、心の原風景が活力の源になればすばらしいと思います。

そして、博物館は素材としては魅力的な資料を恒に温存しています。その保存されている資料、学芸員の持っている知識、感性を、積極的に人々に体験してもらう機会を提供しようとしています。博物館がそもそも持つ機能を、より動的に利用しやすく面白くしようとする試みです。そのような活動は人々に与えるものばかりでなく、博物館にとっても研究の活性化につながります。調査・研究とその成果の発表は、結果として人々に与えようとしている生涯学習を意識することでより有意義なものとなるでしょう。学芸員もその過程で生涯学習を実践していると思います。人々が得るのが研究成果だけでないように、学芸員が教育・普及活動を通して得るものももっと広く深いものでありましょう。各博物館からの報告では、地域の独自の歴史・文化・自然に根ざした取り組みが紹介されました。その後に質疑応答でもあったよ

うに、施設としての機能以上に人が交流し活動することの重要性を感じさせられました。実践する場をまだ持たない私にとっては、理想は語れても具体的な取り組みとその反応となると、そこにこそ大きな課題があると思いますが、学芸員の皆さんの期待以上に地域の方々は楽しんで積極的に学んでいる印象を受けました。

## 「施設見学」

“丘と海の牧場”浦河町には、馬という歴史的にも経済的にも貴重な資源に恵まれその特性を有効活用した施設、活動が繰り広げられていて、大変活気を感じました。町並みもつい足を止めて散策したくなるような、センスの良さと快適さがあります。浦河町立郷土資料館では、浦河町の歴史・自然・産業・生活が、手に取るようにリアルに展示されており、身近な分だけまるで自分の周りで起きている出来事のような印象を受けました。一般の人々が収集し寄贈した資料も多く、暮らしがひとつの時代、町をつくってきたことが伝わってきました。馬については、今まで遠い存在でしたが、今回宿泊した優駿ビレッジAERUでは牧場の風が伸びやかで清々しく、軽種馬育成調教所では馬の迫力と美しさ、競馬馬を生み出す技術と労力に目を見張りました。また、馬事資料館、育成資料館では、新鮮で馬と馬に携わる人々へ興味が膨らみました。伏木田光夫美術館では、外見の雰囲気惹かれ、一歩足を踏み入れれば作品のエネルギーに圧倒されました。画家からのメッセージには、“故郷の波の音や風に舞うカモメの影や、遥かに見える日高山脈の雲はいつも僕が歩いていこうとする風景の中であって、僕を導いてくれる。”とあります。このように、故郷をいとおしみ育まれ、そこから創造力豊かな生が未来へと羽ばたいていくことを期待します。

最後に、多くの学芸員の方と出会い話をする機会に恵まれたことに感謝いたします。個性豊かで深遠なる好奇心に触れ、改めて博物館は知性の魅力を感じさせられました。北海道という豊かな自然環境の中で、多くの体験と人との出会いを通じ実力を磨いていく過程で、よりよい未来を創造していく一翼を担えたらと思います。

(北海道大学 修士課程2年・遠藤真澄)

## 史跡入江貝塚

史跡入江貝塚は、洞爺湖から虻田市街へと向かう国道230号線沿いの高台にある。

遺跡は、縄文時代前期(5,000年前)から後期(3,500年前)まで、およそ1,500年という長い期間にわたって住んでいた人々が残した集落の跡である。遺跡には3ヵ所の大規模な貝塚と数多くの堅穴住居跡が見つかっている。また、貝塚からはこれまでに20体以上もの人骨が見つかり、貝塚が墓地として使用されていたことも明らかとなっている。

遺跡は、昭和63年6月に国の史跡に指定された。整備は平成7年から始められ、今年4月、「入江貝塚公園」としてオープンした。

整備された遺跡内には、入江貝塚の特徴を生かし、縄文人の暮らしが理解しやすいよう、復元した堅穴住居や剥ぎ取った貝層を展示する施設などを設置している。堅穴住居の復元は、発掘調査で検出された状況を復元したもの、骨組みのみ復元したもの、完全復元の3棟を設置し、堅穴住居の平面の形や柱の組み方などがわかるようになっている。

貝塚の断面を展示する施設は、高さ2m、長さ

15mの大規模な展示となっている。入江貝塚は「黒い貝塚」である。貝塚の断面を見てみると、貝が少ないからである。しかし、よく見ると貝のほかにイルカやエゾシカなどの動物骨、マグロやヒラメなどの魚骨が多いことがわかる。そのほか、ウニの殻や棘(とげ)、さらに、こうしたものを調理した際に出た焼土や灰も見ることができる。

一方で、入江貝塚公園と同時オープンした「入江貝塚館」には、発掘調査で見つかった道具類を展示している。入江貝塚では、動物や魚などの獲物をとるときに使った道具が数多く見つかり、石を素材としたやじりのほか、動物の骨でつくられた銚先や釣針といった道具である。もちろん、調理に使った縄文土器や石ナイフ、擦り石などもある。そのほかに特徴的なのは、動物の牙や貝でつくられた装身具である。なかでも、全国的にも珍しいヒトの歯形を表現した猪牙製品や国内最北の発見例となった南海産のオオツタノハガイ製の腕輪などは、当時の文化交流を知る上でたいへん貴重な資料である。

入江貝塚公園は、4月にオープンして以来、これまでに7,000人近い人々が見学に訪れている。また、道内の小学校の修学旅行生も数多く訪れ、中でも復元された堅穴住居と貝塚の展示施設は縄文人の暮らしを知る上で欠かせない体験学習の場となっている。(虻田町教育委員会 角田隆志)

## 贅沢だった空知の夏

ある日の事務所。送られてきたチラシに目を通す。「あら、三笠で化石展。えっ、芦別でも化石展？」そして、数日後の電話。「美唄で化石展を開く予定なのですが……」

今年の夏、空知管内の博物館で3つの化石展が開催されました。高知県より産出した日本最古の化石サンゴ礁とそこに生息していた化石を展示し、サンゴ礁が地球環境に果たした役割を紹介した三笠市立博物館の「日本最古の化石サンゴ礁」、石灰岩からなる地元岨山より産出するベレムナイトや厚歯二枚貝の化石を中心に北海道の形成を海生動物の化石から探る星のふる里百年記念館の「化石は語る一太古の海と動物」、そして化石愛好会会員が収集したアンモナイト約200点を一堂に展示した美唄市郷土史料館の「化石・白亜紀とアンモナイト」と7月から9月にかけて切り口のちがった化石展をみることができました。日高山脈と並行してある空知管内からは、中生代から新生代の化石が豊富に産出するため、地元の人にとって化石は比較的身近な存在です。いずれの特別展も地

元だけではなく、遠方からも多数の入場者を迎え、化石への関心が高いことを示しています。

芦別市の長谷山学芸員は「岨山を中心に地元で収集した化石を公開することで、地域の財産を知ってもらおう」ためこの特別展を企画されたように、空知をよく知るために「化石」は欠くことのできないテーマのひとつです。この夏の3つの特別展は「空知＝化石」を象徴したものでした。

さて、滝川では、7月に旭川市博物館との合同化石教室を行いました。旭川市博物館で3月に開かれた化石展が縁で、合同での化石採集をメインとした学習会を実施しました。タキカワカイギウが発見された空知川で実現した500万年前の海に生きた化石との対面は、参加者と化石との間に流れる時間を縮め、更に関心を深める結果となりました。

自分自身につながる生命の長い歩みの情報を詰めた化石への興味は世代を問いません。「神奈川からなのですが遠いため残念ながらいかがえませんか。」空知から発信されたたくさんの化石情報を知っての電話です。……空知は贅沢な場所なのかもしれません。

(滝川市美術自然史館 学芸員 吉住晴美)

## とべとべ！コウモリ

頭にヘッドランプ、片手に釣り竿、もう一つの手にはダイヤルを装備したマイクのようなものを持ち、夕闇に消えていく集団。彼らは一体何者なのか！

最近、北海道ではコウモリの調査が熱く展開されているらしい。私の住む利尻島でも五種類のコウモリがいることがわかっており、夏には観察会を続けている。参加者の大部分は慣れない暗闇とコウモリに対しての負のイメージが重なり、はじめその顔はちょっと不安げに見える。しかし、バットディテクターを片手にコウモリを探し、ビュンビュン夜道を飛んでいる彼らをながめ、標本などを見たりしているうちに、彼らはニコニコ・ワクワクしながら帰っていつてくれる。このコウモリの魅力とはなんなのだろう？ 小さな哺乳動物がどんな生活を送っているのか、私たちは見ることがほとんどない。それが、どうだろう。コウモリ達は惜しげもなく自由に我々の目の前ではばたき、餌を採ってくれるのである。また、図鑑でしか見

たことないコウモリ、自分たちの街ではとっくにいなくなってしまっているように思っていた動物がこんな身近にいたんだという驚き、そしてそれをはぐくむ森の豊かさに感謝する気持ち。多分、これらのことがコウモリウォッチングを魅力的なものにしているのではないかと考えている。

しかし、道内にどんなコウモリがいるのかはまだまだわかっていないことが多いようだ。先日、捕獲許可申請をし、礼文島でのコウモリ調査を行った。地元のことには詳しいかあさんの「コウモリ！そっだらものいね」という言葉に「あちゃ〜」と思いつつも、その森で調べてみると、ちゃんと三種類のコウモリが飛んでいることがわかった。北海道各地の博物館などで活発に調査が展開されはじめているこの頃、北海道のコウモリ相が明らかになるのも、そう遠くないのではないかと筆者は思っている。興味をもった方はコウモリの会やコウモリフェスティバルなども行われているので、ぜひとも参加してみたいかだろうか。コウモリ自身の魅力、そしてそれをとりまく人々の魅力、あなたを虜にすること間違いはないはずであり、かく言う私もその一人なのである。

(利尻町立博物館・学芸員・佐藤雅彦)

## 旧檜山爾志郡役所庁舎の 開館について

本建造物は明治20(1887)年檜山爾志郡役所兼江差警察署として新築落成した。明治24(1891)年北隣の久遠外3郡役所を統合し、檜山外5郡役所となった。明治30(1897)年、制度改革により、そのまま檜山支庁兼江差警察署となり、その後、幾多の変遷を経て平成5年に江差町役場分庁舎としての役割を終えるまで、106年間にわたり、各官庁に利用されてきた建物である。

平成4年3月、北海道に唯一残る郡役所建造物として北海道有形文化財に指定された。建物は主屋2階建1棟、附設平屋1棟である。平成8～9年度で全面修復工事を行い、明治の姿が蘇った。

本建物の大きな特徴は基本調査の段階や壁や天井で確認された13種の布クロスである。今回の修復ではこのうち7種類を復原した。外観も白と緑の非常に目立つ建物であるが、内装もこの布クロスにより、一層華やかな雰囲気であり、明治時代のお役所というかたいイメージとは程遠い。

また、町教委が所蔵する約50万点の古文書資料

の収蔵・研究のための施設を併設した。今後、整理作業を継続し、資料の閲覧体制を確立し、活用を図っていきたい。

施設は今年4月にオープンした。展示は郡役所など地方自治の変遷と江差の移り変わりとその修復工事の概要となっている。どちらかといえば藩政時代の展示の多い江差の施設の中では極めて新しい時代背景の展示となっている。また、工事の概要の映像や管内の指定文化財の検索可能なパソコン等を設置している。

(江差町教育委員会文化財課 文化財係長・学芸員 藤島一巳)



旧檜山爾志郡役所庁舎

## 美幌博物館における 教育普及活動「自然講座」

美幌博物館では、身の回りの自然の面白さ・素晴らしさに気づいてもらう目的で、一年を通して「自然講座」を実施している。当博物館学芸員を含め、様々な分野で活躍されている講師を招き、「講演会」、「野外観察会」、さらにその講座のテーマに応じた「自由参加の野外調査」をセットにしたスタイルで進めている。対象は小学生～大人まで幅広く募集している。

8月のテーマは「ホタルを探そう」。講師に、ホタル研究の第一人者をお呼びした。

「美幌のホタルの分布を調べてみよう」……講座に前後して講師、博物館職員、ボランティアスタッフ、講座参加者らで、2週間にわたって美幌町内ヘイケボタル分布調査が行われた。単に、限られた時間内の観察会で満足してもらうのではなく、より関心を抱いてもらえるよう、テーマに関連した野外調査を設け、受講者が自由に参加できるようにしている。観察会当日は、小雨が降り肌寒い夜だったが、水田でヘイケボタルが光る姿を

観察でき、「気温が低い条件でも、ヘイケボタルは活動する」という、北海道ヘイケボタルの特徴を認識することができた。さらに翌日行われた野外調査の中で、「美幌産ヘイケボタルの発光パターン」「交尾前後の発光パターンの変化」「町内の様々な環境で生息するホタルの姿」など、観察会だけでは味わえないような、ホタルの生態に少し踏み込んだ面白さを、参加者一同味わうことができた。

参加者が、“身近な”自然に対しての興味を喚起し、それがもとになって、自分自身でテーマを見つけて自然と付き合っていける……そんなきっかけづくりの講座にできればと思っている。

(美幌博物館 学芸員 鬼丸和幸)



第1回自然講座「エゾサンショウウオを探そう」

## 今年度の帯広百年記念館の 特別企画展について

帯広百年記念館では今年度の特別企画展として、「幻の黄金郷 戸賀知登場」と題し、近世史を中心とした展示を7月18日～8月16日の期間行った。入場者数は、1,700人余りであった。

戸賀知という語は文献に登場する「とかち」という地名の初出の表記である。また、その内容が金産出の出来事であったため、展示構成は砂金をキーワードとして北海道および十勝の近世を紹介するというテーマで行った。

展示は1. 蝦夷ヶ島の登場と砂金(中世の北海道)、2. 十勝の登場と砂金(松前藩の成立と藩の財政)、3. 砂金産地から十勝場所へ(十勝場所の様子)、4. 黒船ショックと十勝(和人による十勝での調査・探検)、5. 黄金の島 北海道(金に関する近世・近代史)の5部構成である。

本地域の近世資料は決して多いとはいえ、展示資料を集めることに苦労したが、北海道史的要素から地域史的要素に移行するような展示構成とすることで全体の展示資料を充実させた。また、

解説は近世史の流れをわかりやすく紹介することに努めた。

内陸にある帯広という土地柄、和人の歴史は明治の開拓から、というイメージを持つ一般の人も多く、明治以前の和人の活動を通史的に紹介したことは新鮮に受けとめられたようである。また、関連行事として行った講演会「江戸時代のとかち」は盛況で、参加者からの質問も多かった。このような反応が得られることは、新鮮な知的刺激を求める館に訪れる人に対して一定の供給ができたようにも思われ、このテーマで特別企画展を行った成果の一つとしてあげられる。

(帯広百年記念館 学芸員 山原敏朗)

### ——'98年館園現況調査のお知らせ——

標記調査を行うため、近日中に皆様の元へ調査票をお送りいたしますので、ご協力のほどお願い申し上げます。

調査結果をとりまとめ年度内に出版する予定です。

ご要望等がありましたら事務局までご一報願います。

## 館 園 紹 介

## 足寄動物化石博物館

足寄町の東部には、後期漸新世（およそ3千万年から2千5百万年前）の海成層が分布し、海生哺乳類の化石が産出しています。「足寄動物化石群」と呼ばれる化石は、最初のものものをぞくと、その大部分を地元住民が発見しています。町では化石作業所を設け、大学の研究者などの指導・協力を得て、十数年にわたってこの化石群の保存処理や研究を続けてきました。さらに、標本や研究成果を公開して、町の財産として活用しようとの目的で、博物館の設立をすすめて、本年7月1日一般公開をはじめました。

足寄動物化石群にはクジラ類と束柱類（デスモスチルスの仲間）という二種類の動物が含まれます。クジラは原鯨類と呼ばれる古いタイプから現代型のヒゲクジラやハクジラにむかって進化がはじまった段階のもので、現生のものには見られない原始性と多様性を示します。束柱類は、「謎の動物」の代名詞で知られるデスモスチルス類の祖先形で、この仲間ではもっとも古いものにあたります。両者とも、それぞれの進化を探る上で重要な位置を占め、海外からも注目される資料です。

これら二つのグループの化石資料を基にした足寄動物化石博物館のテーマは、海生哺乳類、町内外の化石資料、交換によって収集したレプリカ資料、現生種の骨格資料などによって展示を構成しました。束柱類は、町内産のベヘモトプス、復元にあつた研究者によって体形が異なる3体のデスモスチルス気屯標本など7本の全身骨格を中心に、研究史もおりませながら展示しています。また、鯨類は、海にもどる前の祖先メソニクス類の塑像にはじまり、足寄動物群に特徴的な「歯のあ

るヒゲクジラ＝アエティオケトゥス類」の頭蓋レプリカを組み合わせたパネル、アエティオケトゥス ポリデンタトゥスの全身骨格復元などの古生物資料にくわえて、現生の骨格6体を展示しました。クジラの大きさを感じていただけます。さらに、鯨脚類、海牛類の資料も徐々に増加してきましたので、館のテーマにあつた展示内容の充実を図っています。

展示室は36×18メートルの1室です。展示什器を基本的に可動式にし、解説パネルもパソコン＋大型プリンターで出力したものを使用して、展示更新を自力でできるようにしました。

国内で恐竜化石の発見が続いていることもあって、古生物や化石には、子供だけではなく幅広い層の関心が高まっています。化石というもの自体に興味を持つ人も多いようです。そこで、従来は舞台裏でおこなわれていたクリーニングや復元の作業を前面に出し、「化石工房」として公開することにしました。化石とはどんなものか、どうやって古生物を復元するのかを、資料を前にして来館者と職員が対話・交流しながら理解していただくというねらいです。また、化石工房の一角には一クラス程度（40名分）が利用できる体験コーナーも設けました。現在はデスモスチルスの臼歯の石膏模型づくりだけのメニューですが、今後は、実際に化石にふれたり、いろんなレプリカを作成できるように充実させるつもりです。

化石を通じて生命の歴史や大地の成り立ちを学びながら、環境問題や地球の未来をみんなで考える博物館として育てていきたいと考えています。

入館料（展示観覧料）は、一般300円、小中高生・65歳以上200円（20名以上団体割引あり）。休館日は、毎週火曜日（火曜日が祝日の場合はその翌日）と12月31日～1月6日。

（足寄動物化石博物館学芸員 澤村 寛）



足寄町動物化石博物館全景



足寄町産ベヘモトプス復元骨格

## 館・園の主な展覧会と普及事業

(10月～3月)

## 石狩

- 江別市郷土資料館(011-385-6466)  
10月～11月「現代の縄文土器展」
- (財)札幌芸術の森(011-592-5111)  
1.24～3.28「第10回札幌芸術の森フォトコンテスト作品展」
- 札幌市豊平川サケ科学館(011-582-7555)  
10月、11月 季節展示「シロザケの産卵行動」、  
12月、1月 季節展示「サケの赤ちゃん誕生」
- 札幌市円山動物園(011-621-1426)  
10月中旬～11月中旬「富山市との動物画交換展示」、  
1.10「親子もちつき大会」
- つきさつ郷土資料館(011-854-6430)  
3月「資料館交流会」
- 北海道立三岸好太郎美術館(011-644-8901)  
12.3～3.28「所蔵品展 三岸好太郎の世界 メルヘンとボエ  
ジーの画家」
- 北海道立文学館(011-511-7655)  
1.9～1.17 母と子の文学の集い「～大井戸百合子／銅版  
画の魅力～」、2.6～3.20 所蔵品展「吉田一穂とその時代」
- 北海道立近代美術館(011-644-6881)  
11.21～12.20「生成するマチュール 一原有徳・版の世界」、  
2.6～3.14 特別展「クロスカルチャーと生活の美 オース  
トラリアの現代工芸」
- 千歳サケのふるさと館(0123-42-3001)  
11月中旬～下旬 意外なサケの仲間たち「シシャモ展」
- 北海道開拓記念館(011-898-0456)  
11.3まで 特別展「うるし文化 一漆器が語る北海道の歴史  
一」、11.3 特別展関連フォーラム「うるし文化を考える」  
※11.4～3.31まで臨時休館

## 渡島

- 榎法華村灯台ファミリー博物館(0138-86-2115)  
11.1「灯台まつり」
- 知内町郷土資料館(01392-5-5066)  
10月 特別展「ふるりの山・川・海・人展」、  
11.28 コンサート「声の魅力」
- 戸井町郷土館(0138-82-2273)  
通年「新常設展示」※平成10年3月改訂
- 市立函館博物館(0138-23-5480)  
11.3 講座「文化の日 ウォークラリー」
- 北海道立函館美術館(0138-56-6311)  
10.24～12.6「世界のポスターアート展」、  
1.5～2.7「版画にみるホイッスラーからウォホルまで」
- 函館市北方民族資料館(0138-22-4128)  
10.3 コンサート「トンコリ演奏会」、  
1.12 講座「ムックリをつくろう」

## 松山

- 江差追分会館(01395-2-0920)  
4.29～10.30「江差追分定時実演」
- 瀬棚町郷土館(01387-7-3205)  
11月まで 常設展示「日本女医第一号 荻野吟子展」

## 後志

- 小樽市青少年科学技術館(0134-22-0031)  
10、11月 星空観察会、10月「ビデオシアター」
- 有島記念館(0136-44-3245)  
10.1、9「有島武郎講座」
- 木田金次郎美術館(0135-63-2221)  
11.3 開館記念「アニバーサリーコンサート」、  
12.5 木田金次郎を偲ぶ「第4回どんざ忌」
- 小樽市博物館(0134-33-2439)  
10.11 自然科学講座「キノコ展」、  
1.17 民俗講座「凧づくり」
- 余市水産博物館(0135-22-6187)  
10月末まで 特別展「大谷地貝塚と余市式土器」

## 空知

- 滝川市美術自然史館(0125-23-0502)  
10.14～11.3 市制施行40年記念「二人の画家～岩橋英遠と  
一木万寿三～」、1.6～1.24「第28回世界児童画移動展」
- 栗山町開拓記念館(01237-2-6035)  
2.6～3.7「収蔵品展」
- 美唄市郷土史料館(01266-2-1110)  
12.12～1.24「あかりの移り変わり」、1.10「冬休み映画会」
- 夕張市美術館(01235-2-0930)  
11.8～11.23 追悼展示「齋藤 清」、  
2.13～3.7 写真展「安藤文雄写真展」

## 上川

- 旭川市博物館(0166-69-2004)  
12.13講座「アイヌ語とアイヌ伝承」、2月 企画展「旭川の  
学校と子供たち～学びの始まりと発展～」
- 旭川市青少年科学館(0166-22-4300)  
1.9、10「科学ワールド 科学探検広場」
- 剣淵町郷土資料館(01653-4-2235)  
11.3「剣淵町文化祭」
- 士別市立博物館(01652-2-3320)  
10.4～11.3 秋の自然展「自然観察への招待」
- 中川町郷土資料館(01656-7-2419)  
11月「顕微鏡観察教室」
- 中原悌二郎記念 旭川市彫刻美術館(0166-52-0033)  
1.30～3.28「彫刻美術館収蔵品展」
- 名寄市北国博物館(01654-3-2575)  
11.15～11.29「白い布を使って作る一布絵展一」、  
1.8～1.24「切手の歴史展」

## 留萌

- 金田心象書道美術館(01632-5-2720)  
12.23「心象館音楽の夕べ」
- 苫前町郷土資料館(01646-4-2954)  
11.10まで 特別展「三毛別ヒグマ事件」
- 留萌市海のふるさと館(0164-43-6677)  
10.25「秋の自然観察」

## 宗谷

- 浜頓別町郷土資料館(01634-2-2525)  
常設展示「砂金堀資料、考古資料、アイヌ民族資料ほか」

## 網走

- 網走市立美術館(0152-44-5045)  
11.12～11.29 現代作家シリーズ「長沢秀之展」、  
3月下旬「子供美術館」

## ●滝上町郷土館(01582-9-3499)

11.2 企画展「ハッカの里」

## ●美幌博物館(01527-2-2160)

11.17~12.14 企画展「交通安全ポスター展」、

12.20~1.31 企画展「奇贈美術資料展」

## ●北海道立北方民族博物館(0152-45-3888)

11.25講座「映像にみる熊と北方民族—熊に対する信仰—」、

2.2~3.20企画展「チベットの人と文化」

## ●北海道立オホーツク流水科学センター(01582-3-5400)

1.14「冬休み子ども科学実験教室」、

1.15~3.22「オホーツク冬情報」

## ●紋別市郷土博物館(01582-4-9755)

2.1 北方圏国際シンポジウム分科会「氷海の民シンポジウム」

## ■胆振

## ●(財)アイヌ民族博物館(0144-82-3914)

10月第5回 アイヌ文化教室「植物講座」

## ●苫小牧市博物館(0144-35-2550)

12.12 講座「美々8遺跡の低湿度について」

2.20 講座「三角測量と福土成豊」

## ●登別クマ牧場(0143-84-2225)

10.25「秋のクマさん教室」、1.24「冬のクマさん教室」

## ●登別市郷土資料館(0143-88-1339)

11.14「人形づくり」、1.25「こけし人形の絵付け」、

2.27「ガッパづくり」

## ●室蘭市民俗博物館(0143-59-4922)

3月初旬学習会「祝儀包と水引飾細工」

## ■日高

## ●えりも町郷土博物館(01466-2-2410)

11.21「夜のアニマルウォッチング」、12.14「流星観望会」

## ●様似郷土館(01463-6-3335)

10.12 見学会「様似山道を歩こう会」

## ●門別町図書館郷土資料館(01456-2-3746)

10月「博物館見学ツアー」、12月中旬「そばづくり教室」

## ■十勝

## ●帯広動物園(0155-24-2437)

10.18「探鳥ピクニック」、

2.7、11、14「冬の動物園裏側探検隊」

## ●帯広百年記念館(0155-24-5352)

10.20~11.29 ロビー展「十勝歴史資料写真展」、

2.13~3.3「ひな人形展」

## ●神田日勝記念館(01566-6-1555)

10.9~14 博覧会「第4回 馬の絵作品展」

## ●北海道立帯広美術館(0155-22-6963)

10.9~12.2「ヨーロッパの名窯 リモージュの輝き—磁器名品展—」

## ■釧路

## ●厚岸町郷土館(0153-52-3794)

11.1~3「郷土館移動特別展」、3.8~22「郷土館特設展」

## ●標茶町郷土館(01548-7-2332)

11月観望会「バードウォッチング」、

3月観望会「冬の自然観望」

## ●釧路市青少年科学館(0154-41-6225)

1.17「親子実験教室」、2.10、17、24、3.3「女性科学教室」

## ●釧路市立博物館(0154-41-5809)

10.31~11.29 企画展「釧路の画家」

## ■根室

## ●標津サーモン科学館(01538-2-1141)

11月30日まで パネル展「鮭児の謎を探る」、

11.3、23「産卵行動観察会」

## ●標津町ポー川史跡自然公園(01538-2-3674)

10.4「第18回 ポー川まつり」、3月末「巣箱づくり教室」

## ●中標津町郷土館(01537-2-2190)

11.7「中標津の動物」、12.8「天体観測」、

2.6「中標津の歴史」

## ●別海町郷土資料館(01537-5-0802)

10月「バードテーブルづくり教室」、年4回特別展「収蔵資料、町民コレクション展」

## ■事務局日誌(平成10年6月4日~9月30日)

6月9日 札幌市市民局文化部会員加入

6月10日 道央地区博物館連絡協議会設立準備委員会事務局  
長出席

6月15日 第63回「道博協ニュース」発行

7月1日 平成10年度第1回役員会

—— 個人会員 赤谷正樹氏入会

7月7日 第37回北海道博物館大会終了に伴う礼状送付

—— 『博物館研究』8月号原稿、名寄市北国博物館へ  
依頼7月9日 平成10年度日本博物館協会顕彰候補者申請書類加  
盟館へ送付

7月22日 個人会員 新庄久志氏退会

7月29日 石狩、後志、空知地区博物館等連絡協議会設立総  
会会長他出席8月7日 平成10年度北海道博物館協会学芸職員研修会開催  
案内—— 道新文化講演会「ロマンと謎影らむキトラ古墳」  
後援8月28日 平成10年度アイヌ民族文化財専門職員研修会後援  
—— 平成10年度北海道博物館協会事業担当理事会開催  
案内9月3~4日 平成10年度道博協学芸職員研修会(足寄町)事  
務局長出席9月4日 平成10年度生涯学習振興奨励費補助金道教委へ交  
付申請—— 平成10年度道博協ミュージアム・マネジメント  
研修会要項送付

—— 平成10年度第2回役員会案内

9月8日 平成11年度北海道博物館協会表彰関係書類加盟館  
園へ送付9月9日 平成10年度北海道博物館協会学芸職員研修会終了  
に伴う礼状送付

9月10日 足寄動物化石博物館加入

9月18日 平成10年度道博協大会報告書原稿、浦河町教育委  
員会より受領

—— 個人会員 島田 功氏入会

—— 平成10年度北海道博物館協会事業担当理事会開催

9月22日 '98北海道化石サミット後援

9月25日 平成10年度生涯学習振興奨励費補助金交付内定